



特定非営利活動法人がんピアネットふくしま

がんピア通信

令和4年3月発行



Cancer
Peer
Net Fukushima
特定非営利活動法人 がんピアネットふくしま



〒960-0211
福島県福島市飯坂町湯野字禿道 19-2
TEL/FAX 024-563-5665

理事長挨拶

がんピアネットふくしま理事長 鈴木 牧子

皆様、この1年もお世話になりまして、ありがとうございます。

コロナの影響を受けながらも、概ねの事業を果たすことができました。今年度は、シンポジウムとミニコンサートのコラボレーションや夕方サロンの増設という工夫で、参加された皆様の笑顔を少しでも増やせたように感じます。年度末の「フォローアップ研修会」は、講演の公開等はできずに限られた会員限定になってしまいましたが、有意義な時間を共有することが叶いました。食料支援の活動では、福島県全域の患者さんから、様々な状況をお聞きする機会にもなり、福島県だからこそその「がん対策」の必要性も知りました。次年度も、ネットワークの皆様はじめ、会員各位には、どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げます。



活動報告

【働くサバイバーのための夕方サロン】 開催時間:18:00~19:30(90分)

◆福島会場

第1回:2021年09月28日(福島市市民会館)

第2回:2022年02月25日(福島市市民活動サポートセンター)

◆郡山会場

第1回:2021年11月19日(郡山市労働福祉会館)

第2回:2022年02月22日(郡山市労働福祉会館)

通常サロンの時間帯に参加することが難しいサバイバーさんやケアギバーさんのために、仕事終わりに参加できるよう夕方6時から開催しました。お仕事があり、通常サロンでは会えないサバイバーさんにもご参加いただくことができました。



【第12回福島県がんピアサポーター養成講座】

■12/11(土) 於：福島市市民活動サポートセンター

受講者6名の方々には、午前の部は、当法人ピアサポーターでメンターの郡司広美さんから、ピアサポートの定義やピアサポーターの役割、ピアサポートにとって大事なことについての講義を、同じくメンターの箭内明美さんからは、ピアサポートサロンの流れやサロンでの約束事、実際のサロンでの事例についての講義をしていただき、ピアサポーターの基礎について学んでいただきました。

また、外部講師として、株式会社コスモファーマ 薬事グループ 医療安全推進室室長 薬剤師の松木友治さん、医療生協わたり病院 地域連携室兼医療介護相談室室長 医療ソーシャルワーカーの熊田貴史さんをお招きし、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、それぞれのお立場から、がんピアサポーターとして活動する際に、知っておきたい基礎知識をご講演いただき、聴講しました。

午後の部は、2グループに分かれて実際のサロンを想定して、各グループ別々のテーマに沿って、グループワークを行いました。各グループ、配役決めからどのような感じで話を進め方について意見を出し合いながら決めていき、サロンの流れや雰囲気学び、発表しました。



【令和3年度福島県がんピアサポーター・医療者向研修会】

■3/12(土) 於：コラッセふくしま

講師として、奥羽大学 歯学部 心理学分野 公認心理師 臨床心理士の鈴木敏城さん、星総合病院 教育研修センターの佐藤朋美さん、もしバナゲーム ファシリテーターとして星総合病院 総合相談課の小林美穂さんをお招きし、開催しました。

鈴木敏城さんには、「相談者の心に焦点を当て続ける対応とは」という演題で、ピアサポーターとして相手の話に傾聴するとき大切なことや注意すべき点等について、お話いただきました。

佐藤朋美さんには、「元気なうちから何度でも～もしバナゲームで ACP～」という演題で、もしもの時に自分の今後について、治療方針などの考えを前もって信頼できる方と話し合う ACP(人生会議)の必要性や大切さについてお話いただきました。その後、「もしバナカード」を用いて、今現在、自分が大切にしたいと思っていることが何なのかをゲームをしながら、考えていきました。皆さん、真剣に、そして楽しみながら進めることができました。





第19回 日本臨床腫瘍学会 参加報告

がんピアネットふくしま ピアサポーター(メンター) 大内 直美

2月17, 18, 19日の3日間にわたり、第19回日本臨床腫瘍学会の患者・アドボケイト・プログラム(PAP)にWEBで参加させていただきました。当初は現地開催で応募していたのですが、2022年に入り、新型コロナウイルス感染症がものすごい勢いで拡大し始めた為、早い段階で患者はWEB開催へと変更されました。Vimeo(動画配信サイト)というツールを利用してオンラインで行われたのですが、3日間のプログラムは基礎編から応用編まで非常に勉強になりました。

日本臨床腫瘍学会は、主にがん診療に関わる医師などの医療従事者、研究者が最新の研究成果を発表する場で例年多くの研究が発表されています。これらの研究の目的は私たちががん患者により良い医療を届けてくれることにあります。近年は私たちががん患者との協力体制の構築が重要と考えられ、第9回の学会から、より良いがん医療の実現につながっていくことを目的として開催されており、このPAPプログラムは全国がん患者団体連合会と臨床腫瘍学会関連部会委員の方と協働して企画されています。こういった学会にがん患者としてがん診療、がん研究に対する知識と理解を深めることができたことは大変貴重な経験でした。

1日目の基礎講座はがん医療やがん対策、がん予防について広く学ぶ構成でした。2日目の応用講座では医学研究・臨床試験等における患者市民参画(PPI; Patient and Public Involvement)を推進することでより良いがん医療のために患者、家族等が協働することの重要性を学びました。3日目は応用講座で学んだ内容を踏まえて、グループディスカッションをするのですが、治験に関わる、「同意説明書、治験実施計画書」を患者目線で読み解くもので、非常にハイレベルな内容でした。グループに分かれてそれぞれ意見を述べるのですが、ファシリテーターの方に助けられてなんとか終わることができています。

今回の学会では、これからますます進歩するがん免疫療法や最新のがん放射線療法にも期待が大きく、がん全ゲノム解析技術の進歩によって、分子レベルの解析が可能となり、一人ひとりのがんのタイプに合わせた最適ながん治療が、近い将来標準治療へと進化していくであろうと確信しました。もちろんがん医療の進歩と同時に倫理的、法的、社会的課題やがん医療の均てん化などクリアされなければならない課題は多く、医学を前に進めるために私たちががん患者も正しい情報、知識を共有し医療者と参画していく必要性はますます高くなると思いました。

がん医療は日々進歩していますが、そこには多くの医師、多くの研究者、そして治験を行う患者がいて成り立っていると思います。現在保険収載されている標準治療はこうしたたくさんの人の努力と時間によって生まれたものだと痛感致しました。

臨床腫瘍学会では、それぞれの分野の最前線で活躍している先生方が参加されているので、講演された先生方の熱意が画面からたくさん伝わってきました。もちろんその内容は難しい医学用語も多くあり、英語も多く、ネットで検索をしながら視聴をしたのですが、最先端のがん医療を知る機会はなかなか無いので、このような機会を与えて下さった鈴木牧子理事長にこの場をお借りし心より感謝申し上げます。

がん患者は常のがんの再発や転移の心配と隣り合わせで日々暮らしています。しかし医療の進歩と共にがんは治る時代へと確実に変わってきています。がんが再発・転移しても治る病気にすることを目指して前進したいとおっしゃっていた先生もいらっしゃいました。心強い限りです。私自身、今回の学会で得た知識や情報を整理し皆様に少しでもお伝えできたらと思っています。

最後に一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息し、今後開催される様々な学会が現地開催となることを願っています。

第19回 日本臨床腫瘍学会学術集会参加報告

がんピアネットふくしま ピアサポーター(メンター) 箭内 明美

2022年2月17日から19日の3日間オンラインではありましたが、臨床腫瘍学会に参加いたしました。

がんの薬物療法から手術療法、放射線療法、さらにゲノム医療まで幅広く学ぶことができました。

今回どの治療法にも共通して出てきた言葉があります。それは「個別化医療(治療)」「精密医療(治療)」という言葉です。今までは腫瘍の部位ごとにある程度決まった薬(主に抗がん剤)が使われてきました。例えば乳がんにはこの薬、大腸がんにはこの薬と言うようです。しかし、遺伝子レベルでの解析(ゲノム解析)ができるようになってきて、部位は同じでも違う薬、抗がん剤だけではなく分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、より一人一人に合ったオーダーメイドのような治療が行われるようになってきています。

さらにそれは薬による治療ばかりではなく、手術や放射線治療でも同じことが言えます。今後、よりピンポイントでより精密に病巣へアプローチでき、がん細胞は確実に取り除きながらも患者の身体への負担が少ない治療へとなっていくでしょう。

私たちががん患者にとっては夢のような話ですね。ただまだまだ課題も多くあり、現実的には現在の標準治療が効かない患者さんにごがん遺伝子パネル検査を用いても有効な薬剤に到達できる確率は約11%程度だそうです。今後さらに研究が進み、一人一人に合った薬や副作用が少なく効果の高い治療が患者さんにしっかり届くようになって欲しいと心から思いました

そのような新しい薬や治療法が私たちのもとへと届くまでには、研究者の努力はもちろんですが臨床試験や治験といったかたちで協力し、エビデンスを残してくださった患者さんがいることも忘れてはなりません。

今回グループディスカッションでは臨床試験について学びました。臨床試験を行う場合綿密に実施計画が練られ、参加する患者自身も数十ページにも及ぶような同意説明文書を理解しなければならないことを知りました。臨床試験は治療ではなくあくまでも研究であるということも理解しなければなりません。もちろん参加する患者の意思は最大限尊重されます。

漠然と知っているつもりでいた臨床試験(治験)についても理解が深まりました。

今回学んだ多くのことを、今後の活動の中で生かしていければと思います。

大切なお知らせ

◆会員更新のお願い

令和3年度事業も3月の通常サロンで終了となります。ありがとうございます。当会は皆さまのご支援、ご協力によって成り立っています。別紙案内をご確認ください。更新の際は、同封の振込用紙にて更新手続きをよろしくお願いいたします。

◆令和4年度(2022年度)通常総会のお知らせ

開催日時:2022年4月22日(金)19時~20時

開催場所:福島テルサ「しのぶ」

通常総会を開催します。別紙案内をご確認の上、同封の返信ハガキをご投函ください。出席、欠席どちらの場合でもハガキの提出が必要です。準備の都合上、3月末日(期日厳守)までのご投函をよろしくお願いいたします。

編集後記

令和3年度も皆さまのお力を借りながら、通常サロンや大きなイベントを開催することができました。ありがとうございました。笑顔で会える日、楽しみにしております♪(遠藤)

